



ユーザとグループの設定

Cisco Unity Express の設定機能と管理機能はすべて、グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) から使用できます。ただし、GUI よりもコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用した方が効率的になる場合があります。たとえば、特定のシステムに対して多数のユーザを設定するためのスクリプトを作成する場合があります。この場合は、CLI を使用した方がより効率的な場合があります。

この章では、次のタスクを実行するコマンドについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「前提条件」 (P.135)
- 「ユーザの追加と変更」 (P.136)
- 「グループの追加と変更」 (P.141)
- 「特権の設定」 (P.145)

前提条件

Cisco Unified CME ルータまたは Cisco Unified Communications Manager サーバに接続されている、電話機および内線の設定が完了していることを確認します。まだ設定が完了していない場合は、手順について、『[Cisco Unified Communications Manager Administration Guide](#)』または『[Cisco Unified CME System Administrator Guide](#)』を参照してください。Cisco Unified CME システムの場合は、これらの手順に Cisco Unity Express GUI を使用できます。

ユーザの追加と変更

Cisco Unified CME または Cisco Unified Communications Manager で設定されたユーザは、Cisco Unity Express データベースにインポートできます。

- Cisco Unity Express は、そのデータベースを Cisco Unified Communications Manager データベースと自動的に同期しません。Cisco Unity Express で定義されたユーザを Cisco Unified Communications Manager データベースに入れる必要がある場合は、あとで Cisco Unified Communications Manager に戻り、そこでユーザを定義してください。



(注) Cisco Unity Express で [Configure] --> [Users] を使用して Cisco Unified CME ユーザのパスワードを変更した場合、そのユーザのパスワードは Cisco Unified CME で更新されます。ただし、その逆は当てはまりません。つまり、Cisco Unified CME で変更したユーザパスワードは、Cisco Unity Express で更新されません。

- Cisco Unity Express と Cisco Unified CME のデータベースの同期をとるには、Cisco Unity Express GUI オプションの [Administration] > [Synchronize Information] を使用します。

ここで説明する手順を使用すると、システムに新規のユーザを作成できます。既存のユーザのプロパティを変更するときは、同じ手順を使用します。

Cisco Unity Express では、メールボックス数の 2 倍のユーザがサポートされます。システム管理者など、ユーザによってはボイスメールボックスが割り当てられない場合があります。ユーザの最大数は、モジュールのライセンスによって決まります。モジュールに許容されるユーザの最大数については、「[プロンプト ファイルの録音](#)」(P.84) を参照してください。

この手順に必要なデータ

ユーザを追加または変更するには、次の情報が必要です。

- ユーザ名：ユーザ ID。ユーザ名の長さは、3 ～ 32 文字にする必要があります。Cisco Unity Express では、ユーザ ID に英字、数字、下線 (_)、ドット (.)、およびダッシュ (-) だけを使用できます。ユーザ ID の先頭は英字にする必要があります。ユーザ名にはスペースは使用できません。
- (オプション) ログイン ユーザ名：ユーザの姓名。引用符 (" ") で囲む必要があります。
- (オプション) グループ：このユーザが属する既存のグループの名前。
- (オプション) パスワード：Cisco Unity Express GUI にログインするためのパスワード。パスワードの長さは、3 ～ 32 文字にする必要があります。スペースは使用できません。
- (オプション) PIN：TUI にログインするための Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号)。PIN の長さは、3 ～ 16 桁の数字にする必要があります。



(注) PINless ボイスメールを設定する方法については、「[PINless メールボックス アクセスの設定](#)」(P.159) を参照してください。

概略手順

EXEC モード :

1. **username** *userid* [**create** | **delete** | **fullname** [**first** "*first-name*" | **last** "*last-name*" | **display** "*full-name*"] | **group** *group-name* | **language** "*language*" | **password** "*password*" | **pin number**]
2. **show users**
または
show user detail *username userid*
3. **copy running-config startup-config**

設定モード :

1. **config t**
2. **username** *userid* [**create** | **onenumber** *phone-number* | **onenumberE164** *full-number*]
3. **exit**
4. **show users**
または
show user detail *username userid*
5. **copy running-config startup-config**

詳細手順

EXEC モード :

コマンドまたは操作	目的
<p>ステップ 1</p> <pre>username userid [create delete fullname [first "first-name" last "last-name" display "full-name"] group group-name language "language" password "password" pin number]</pre> <p>例 :</p> <pre>se-10-0-0-0# username user1 create se-10-0-0-0# username user2 fullname display "User 2" se-10-0-0-0# username user2 group sales se-10-0-0-0# username user2 password "green" se-10-0-0-0# username user2 pin 4444 se-10-0-0-0# username user2 delete</pre>	<p>指定されたユーザ ID でユーザを作成します。ユーザに関する追加情報は、オプションのパラメータで設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • userid : ユーザのユーザ ID。ユーザ ID の長さは、2 ~ 31 文字にする必要があります。Cisco Unity Express では、ユーザ ID に英字、数字、下線 (_)、ドット (.)、およびダッシュ (-) だけを使用できます。ユーザ名にはスペースは使用できません。ユーザ ID の先頭は英字にする必要があります。 • create : 他の情報を設定せずにユーザを作成します。 • delete : 既存のユーザを削除します。 • fullname : このユーザのログイン ユーザ名を指定します。このログイン ユーザ名は、電話機のディスプレイに表示されます。 • group : このユーザを既存のグループと関連付けます。 • language : 指定されたユーザに使用するデフォルトの言語を指定します。使用可能な言語のリストについては、『Release Notes for Cisco Unity Express』を参照してください。 • password : このユーザのパスワードを指定します。password 値は、引用符 (" ") で囲んで入力する必要があります。スペースは使用できません。使用できるパスワード文字は、a ~ z の小文字、A ~ Z の大文字、0 ~ 9 の数字、および - , . + = _ ! @ # \$ ^ * () ? / ~ < > & % の記号です。 • pin : このユーザの個人識別番号 (PIN) を指定します。ユーザはボイスメール システムにアクセスするときに、電話機からこの番号を入力します。PIN には、最大 16 桁の数字を含めることができます。アスタリスク (*) とシャープ記号 (#) は使用できません。

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 2 <code>show users</code> または、 <code>show user detail username userid</code> 例： <code>se-10-0-0-0# show user detail username user2</code>		システムに設定されている全ユーザのユーザ ID のリストを表示します。 または、 指定されたユーザに対して設定された詳細情報を表示します。
ステップ 3 <code>copy running-config startup-config</code> 例： <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code>		コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

例

次の出力は、**show users** コマンドと **show user detail username** コマンドを示しています。

```

se-10-0-0-0# show users
user1
user2

se-10-0-0-0# show user detail username user2
Full Name:      User 2
First Name:
Last Name:     user2
Nickname:      user2
Phone:
Phone (E.164):
Language:      en_ENU
se-10-0-0-0#
    
```

設定モード：

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例： <code>se-10-0-0-0# config t</code>	設定モードを開始します。
ステップ 2	<code>username userid [create phonenumber phone-number phonenumberE164 full-number]</code> 例： <code>se-10-0-0-0(config)# username user3 create</code> <code>se-10-0-0-0(config)# username user3 phonenumber 50180</code> <code>se-10-0-0-0(config)# username user3 phonenumberE164 13335550180</code>	指定されたユーザ ID でユーザを作成します。ユーザに関する追加情報は、オプションのパラメータで設定します。 <ul style="list-style-type: none">• userid：ユーザのユーザ ID。ユーザ ID の長さは、2 ～ 31 文字にする必要があります。Cisco Unity Express では、ユーザ ID に英字、数字、下線 (_)、ドット (.)、およびダッシュ (-) だけを使用できます。ユーザ名にはスペースは使用できません。ユーザ ID の先頭は英字にする必要があります。• create：他の情報を設定せずにユーザを作成します。• onenumber：このユーザの電話番号または内線番号を指定します。スペースやダッシュは使用できません。• onenumberE164：このユーザの電話番号および市外局番を指定します。スペースやダッシュは使用できません。
ステップ 3	<code>exit</code> 例： <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code>	設定モードを終了します。
ステップ 4	<code>show users</code> または、 <code>show user detail username userid</code> 例： <code>se-10-0-0-0# show user detail username user2</code>	システムに設定されている全ユーザのユーザ ID のリストを表示します。 または、 指定されたユーザに対して設定された詳細情報を表示します。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code> 例： <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code>	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

例

次の例は、ユーザの設定方法と `show` コマンドの出力を示しています。

```
se-10-0-0-0(config)# username user3 create
se-10-0-0-0(config)# username user3 phonenumber 50180
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0# show users
user1
```

```
user2
user3
se-10-0-0-0# show user detail username user3
Full Name:          User 3
First Name:
Last Name:          user3
Nickname:           user3
Phone:              50180
Phone(E.164):
Language:           en_ENU
```

グループの追加と変更

グループとは、ユーザの集合のことで、一般的に、営業、本社、カスタマー サービス、技術者など、共通の機能または目的を持ちます。グループには次の特性があります。

- グループのメンバーには、個々のユーザまたは他のグループを指定できます。
- グループには内線番号が割り当てられます。
- グループにはメールボックスを割り当てることができます。
- グループには、所有者として 0 人以上のユーザが存在します。グループの所有者は、メンバーを追加および削除できます。また、所有者は他の所有者をグループに追加および削除できます。
- メンバーは複数のグループに属する場合があります。
- メンバーをグループに追加するには、設定モードの **groupname** コマンドを使用するか、EXEC モードの **username** コマンドを使用します。 **username** コマンドの詳細については、「[ユーザの追加と変更](#)」(P.136) を参照してください。



(注) ユーザは、グループに追加する時点で存在している必要があります。ユーザの詳細情報を設定する場合は、「[ユーザの追加と変更](#)」(P.136) を参照してください。

- グループのボイスメールボックスにあるメッセージへのアクセス権を持っているのは、メンバーだけです。所有者は、グループのメンバーとは見なされません。所有者がグループのメールボックスにアクセスする必要がある場合は、所有者をグループのメンバーとして追加します（グループでは、所有者の名前は 2 回表示されます。1 回はメンバーとして、もう 1 回は所有者として表示されます）。
- グループには特権レベルが割り当てられる場合があります。特権レベルが割り当てられたグループのメンバーは、管理機能のすべてまたは一部にアクセスできます。システムにインストールされている特権レベルを表示するには、**show privileges** コマンドを使用します。各グループに割り当てられた特権を表示するには、**show groups privileges** コマンドを使用します。特権レベルの詳細については、「[特権の設定](#)」(P.145) を参照してください。

システムに許容されるグループ、所有者、およびメンバーの最大数については、「[プロンプト ファイルの録音](#)」(P.84) を参照してください。

次の手順に従うと、システムに新しいグループを作成できます。

この手順に必要なデータ

グループを定義するには、次の情報が必要です。

- EXEC モード :
 - グループの名前
 - (オプション) グループの説明
 - (オプション) グループのログイン ユーザ名
- 設定モード :
 - グループの名前
 - (オプション) メンバーとして追加する 1 つ以上の既存のユーザ ID またはグループ ID
 - (オプション) 所有者として追加する 1 つ以上の既存のユーザ ID
 - (オプション) グループの内線番号または電話番号
 - (オプション) グループの完全な E.164 電話番号
 - (オプション) グループの特権レベル

概略手順

EXEC モード :

1. **groupname** *userid* [**create** | **delete** | **description** "*description*" | **fullname** "*full-name*"]
2. **show groups**
または
show group detail *groupname* *groupid*
3. **copy running-config startup-config**

設定モード :

1. **config t**
2. **groupname** *groupid* [**member** *username* | **owner** *ownername* | **phonenumber** *phone-number* | **phonenumberE164** *full-number* | **privilege** *privilege-id*]
3. **exit**
4. **show groups**
または
show group detail *groupname* *groupid*
5. **copy running-config startup-config**

詳細手順

EXEC モード:

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<p><code>groupname groupid [create delete description "description" fullname "full-name"]</code></p> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0# groupname sales fullname "Sales Department" se-10-0-0-0# groupname sales description "Retail Sales Department" se-10-0-0-0# groupname sales delete</pre>	<p><code>groupid</code> 値を使用してグループを作成します。グループに関する追加情報は、オプションのパラメータで設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> create : 他の情報を設定せずにグループを作成します。 delete : 既存のグループを削除します。 description : グループの説明を指定します。 fullname : グループのログイン名を指定します。
ステップ 2	<p><code>show groups</code></p> <p>または、</p> <p><code>show group detail groupname groupid</code></p> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0# show group detail groupname sales</pre>	<p>設定されたグループすべてのグループ ID のリストを表示します。このコマンドではグループの詳細は表示されません。</p> <p>または、</p> <p><code>groupid</code> 値を持つグループに関する詳細な設定情報を表示します。</p>
ステップ 3	<p><code>copy running-config startup-config</code></p> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</pre>	<p>コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。</p>

例

次の例では、グループが作成され、`show` コマンドの出力が表示されます。

```
se-10-0-0-0# groupname sales fullname "Sales Department"
se-10-0-0-0# groupname sales description "CA office"

se-10-0-0-0# show groups
Administrators
sales

se-10-0-0-0# show group detail groupname sales
Full Name:      Sales Department
Description:    CA office
Phone:
Phone(E.164):
Language:      en_ENU
Owners:
Members:
se-10-0-0-0#
```

設定モード :

コマンドまたは操作	目的
<p>ステップ 1 <code>config t</code></p> <p>例： <code>se-10-0-0-0# config t</code></p>	<p>設定モードを開始します。</p>
<p>ステップ 2 <code>groupname groupid [member username owner ownername phonenumber phone-number phonenumberE164 full-number privilege privilege-id]</code></p> <p>例： <code>se-10-0-0-0(config)# groupname sales member user1</code> <code>se-10-0-0-0(config)# groupname sales owner user2</code> <code>se-10-0-0-0(config)# groupname sales phonenumber 50163</code> <code>se-10-0-0-0(config)# groupname sales phonenumberE164 14445550163</code> <code>se-10-0-0-0(config)# groupname sales privilege ManagePrompts</code></p>	<p><code>groupid</code> 値を使用してグループを作成します。ユーザに関する追加情報は、オプションのパラメータで設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • member : 既存のユーザをこのグループのメンバーとして関連付けます。このコマンドを繰り返して、グループに複数のユーザを割り当てます。 • owner : グループの所有者を指定します。所有者は、メンバーとは見なされません。所有者にグループのボイスメールボックスへのアクセス権を割り当てる場合は、所有者をメンバーとして割り当てます。 • onenumber : このグループに電話番号または内線番号を関連付けます。スペースやダッシュは使用できません。 • onenumberE164 : このグループに電話番号および市外局番を関連付けます。スペースやダッシュは使用できません。 • privilege : グループの特権レベルを指定します。このグループに割り当てられたメンバーには、指定された特権が付与されます。
<p>ステップ 3 <code>exit</code></p> <p>例： <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code></p>	<p>設定モードを終了します。</p>
<p>ステップ 4 <code>show groups</code></p> <p>または、 <code>show group detail groupname groupid</code></p> <p>例： <code>se-10-0-0-0# show group detail groupname sales</code></p>	<p>設定されたグループすべてのグループ ID のリストを表示します。このコマンドではグループの詳細は表示されません。</p> <p><code>groupid</code> 値を持つグループに関する詳細な設定情報を表示します。</p>
<p>ステップ 5 <code>copy running-config startup-config</code></p> <p>例： <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code></p>	<p>コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。</p>

例

次の例では、sales グループに所有者と 2 つのメンバーが追加され、sales に電話番号が割り当てられます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# groupname sales member user1
se-10-0-0-0(config)# groupname sales member user2
se-10-0-0-0(config)# groupname sales owner user1
se-10-0-0-0(config)# groupname sales phonenumber 50163
se-10-0-0-0(config)# groupname sales phonenumberE164 12225550163
se-10-0-0-0(config)# groupname sales privilege ManagePrompts
sse-10-0-0-0(config)# exit

se-10-0-0-0(# show groups
Administrators
sales

se-10-0-0-0# show group detail groupname sales
Full Name:      Sales Department
Description:    CA office
Phone:          50163
Phone(E.164):  12225550163
Language:       en_ENU
Owners:         user1
Members:        user1 user2
se-10-0-0-0(#
```

特権の設定

Cisco Unity Express ソフトウェアが認識するユーザの特権は、次のとおりです。

- **Superuser** : Superuser 特権を持つユーザは、Cisco Unity Express GUI に管理者としてログインできます。また、Administration via Telephone (AvT) を通じてリモート ユーザおよびロケーションの音声名を録音できます。
- **ManagePrompts** : ManagePrompts 特権を持つユーザは AvT へのアクセス権を持っていますが、それ以外の管理機能へのアクセス権は持っていません。
- **Broadcast** : Broadcast 特権を持つユーザは、ブロードキャストメッセージをネットワーク全体に送信できます。
- **Local-Broadcast** : Local-Broadcast 特権を持つユーザは、ローカル ネットワーク上のユーザだけにブロードキャストメッセージを送信できます。
- **ManagePublicList** : ManagePublicList 特権を持つユーザは、パブリック同報リストを作成および変更できます。
- **ViewPrivateList** : ViewPrivateList 特権を持つユーザは、別のユーザのプライベート同報リストを表示できます。ただし、そのプライベート リストは変更または削除できません。
- **ViewRealTimeReports** : ViewRealTimeReports 特権を持つユーザは、リアルタイム レポートを表示できます。
- **ViewHistorical Reports** : ViewHistoricalReports 特権を持つユーザは、履歴レポートを表示できます。
- **Vm-Imap** : Vm-Imap 特権を持つユーザは、IMAP 機能を使用できます。

これらの特権レベルは、グループに割り当てられます。また、グループのメンバーには、特権が付与されます。ソフトウェア初期化プロセスにより、管理者として指定されたインポート済みユーザから **Administrator** グループが作成されています。それ以外のグループについては、これらの特権を使用して作成できます。既存のグループにユーザを割り当てるには、CLI コマンドまたは GUI オプションの **[Configure] > [Users]** を使用します。

特権リストを表示するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **show privileges** コマンドを使用します。グループに特権レベルを設定する方法については、「[グループの追加と変更](#)」(P.141) を参照してください。